

NEWSLETTER

No. 1
Vol. 46
2019.10

What's
New

医工連携拠点棟 (iMec棟) 完成

医療現場のニーズから魅力あふれるプロジェクトの創生へ



医工連携拠点棟 (iMec棟) 完成

— 医療現場のニーズから魅力あふれるプロジェクトの創生へ —

理事(教育・産学連携担当)・副学長 山本 清二



学内研究エリア・病院エリアと緊密に結ばれた医工連携拠点棟



▲ テープカットを行う今野学長ら

去る7月2日、待ちに待った医工連携拠点棟のオープニングセレモニーが執り行われました。文部科学省の科学技術・学術政策局から松尾泰樹局長がご出席いただいたのをはじめ、多くの国の機関から、また静岡県と浜松市など自治体関係の方々、静岡県内だけでなく県外の大学関係の方々、さらに日本医療機器工業会を始めとする多くの企業の方々がお忙しい中お集まりくださり、学内外から100名あまりの出席者で拠点棟のオープニングをお祝いすることができました。お集まりいただいた皆さんには、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

完成した医工連携拠点棟は、ここからInnovative Medical Collaborationを育て発展させたいという願いから、その略称をiMec棟と呼びたいと思っています。どうかみなさんにもこの愛称で呼んでいただけますよう、よろしくお願いします。

医工連携拠点棟は、平成28年度に公募された文部科学省地域科学技術実証拠点整備事業に、浜松医科大学が「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点(通称 はままつ医工連携拠点)」の活動を行う場としての拠点棟を提案し採択されたものです。はままつ医工連携拠点は、さらに遡ること10年、平成21年度のJST(日本科学技術振興機構)地域産学官共同拠点整備事業によります。この事業に、浜松医科大学を中心に静岡県から産学官7団体(浜松商工会議所、(財)浜松地域テクノポリス推進機構[現(公財)浜松地域イノベーション推進機構]、浜松医科大学、静岡大学、光産業創成大学院大学、静岡県、浜松市)が「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点事業」を提案し、平成21年12月に全国28地域の一つとして採択され、1年間の準備期間を経て、平成23年度から正式に拠点の運営が開始されました。さらに浜松医科大学は「はままつ医工連携拠点」の活動とリンクして、平成26年度から日本医療研究開発機構(AMED)「国産医療機器創出促進基盤整備等事業」の全国11拠点の一つに選定され、8年間に14の医療機器の製品化を達成し、浜松からの発信に全国の多くの自治体、大学、機関、企業が注目しています。

浜松地域には「光・電子技術」「ものづくり技術」「ソフトウェア技術」に優れた企業が多く集積しています。その中であって浜松医科大学は、附属病院の医師はじめ医療従事者の理解と協力があればこそですが、技術力の高い地域企業と国内医療機器メーカーに対して、附属病院他、医療現場の門戸を拓けること



▲ 多様な目的に活用できる会議室



▲ 顕微鏡の操作感覚で使用できる手術用立体内視鏡

で、医療現場のニーズと工学・工業技術のコラボレーションを推進して医療機器創出の成果を挙げてきました。これは全国的にも高く評価されており、今後も医療現場のニーズから魅力あふれるプロジェクトを創生することを目標にしたいと思っています。

はままつ医工連携拠点は一種のクラウドのような組織で、提案機関である産学官7団体に所属する人たちが、それぞれの立場で「はままつ医工連携拠点」の仕事をし、成果を共有しています。このような組織は全国的にも珍しく、自分が所属する組織の中でしっかり仕事をすれば、それが「はままつ医工連携拠点」の仕事にもなるという仕組みです。今回活動の場としてのiMec棟が完成しましたので、これまで以上に、提案機関である産学官7団体に所属する人たちは、それぞれの立場でiMec棟を活用していただきたいと思います。iMec棟の中には、会議やセミナー



▲ 「ものづくり工房」の3Dプリンタ

を開催できる部屋の他に、産学が一緒に集まって医療機器開発ができる研究開発室や医療機器のプロトタイプができる3Dプリンタを置いた「ものづくり工房」も設置されています。医療機器は多くの要素・技術が集約される複合体であり、多くの人々の力(共同開発)が必要です。完成となったiMec棟で、みんなで顔と顔を突き合わせた議論をすることで、優れた知恵と力を結集して、魅力あふれるプロジェクトの創生へつながることを切に希望しています。

目次

トピックス 1-2

- 医工連携拠点棟(iMec棟)完成
— 医療現場のニーズから魅力あふれるプロジェクトの創生へ —

研究最前線 3

- 未診断疾患イニシアチブ(IRUD):
希少難治性疾患発症機序の解明

新任職員の紹介 4-6

講座・研究室紹介 7

学会賞等受賞 8

海のみこうで 9-10

- 第11回World Congress of Hair Researchに出席して 9
- 海と砂浜に囲まれたハワイ実習 10

主催学会・シンポジウム 11-12

- 第2回薬理ゲノミクスセミナーの開催報告
- 日本臨床検査医学会第11回特別例会を主催して
— 4年に1度の日本医学会総会に合わせた特別例会 —
- 第19回慶北—浜松合同医学シンポジウム
- 第44回日本小児眼科学会総会
- 第4回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会を開催して

お知らせ 12

- 看護師特定行為研修センター開講式・第1回入講式挙行

大学ニュース 13-20

- 各種行事 13-14
- サークル活動の記録 15
- サークル紹介 16
- 国家試験合格状況 17
- 第113回医師国家試験大学別合格状況 17
- 平成31(令和元)年度入学者選抜試験実施状況 18
- 平成30年度卒業生・修了生の進路状況 19
- 留学生の紹介 20

卒業生は今 21-22

- 手術に向き合う日々 21
- WLBを大切に仕事もプライベートも
楽しくが私のモットーです 22

表紙の写真

産学官の研究者や職員が共同で施設を利用することで、新たなイノベーション創出の基盤強化を実現する医工連携拠点棟(iMec棟)

令和元年8月撮影



未診断疾患イニシアチブ(IRUD)： 希少難治性疾患発症機序の解明



小児科学講座 教授

緒方 勤

未診断疾患イニシアチブについて

未診断疾患イニシアチブInitiative on Rare and Undiagnosed Diseases (IRUD)は、未診断の希少難治性疾患を有する患者さんに対してエクソーム解析を主とする遺伝学的解析を行い、疾患発症機序解明とその成果の医療への応用を目指すビッグプロジェクトです。これは、日本医療研究開発機構(AMED)の支援のもとに2015年に始まり、浜松医科大学は、IRUD発足初期から拠点施設として活動し、現在

までに約220家系(約650検体)の希少難治性疾患の解析を行っています。そして、約40%の患者・家系において、その発症原因となる遺伝子変異を同定しております。これは、全国的にも多い症例・家系数であり、その遺伝子変異同定率は世界最高水準に匹敵します。現在の体制は、主に緒方が施設代表ならびに小児疾患担当、堀田教授が成人疾患担当、才津教授が解析担当となっています。

主たる成果-1:世界初の生殖細胞由来機能亢進型GNAS遺伝子変異の発見(図1)

GNAS-Gs α は、膨大な数で存在するGタンパク質共役型受容体の細胞内シグナル伝達を担う分子です。その体細胞由来機能亢進変異は、皮膚カフェオレ斑、線維性骨異形成症、ゴナドトロピン非依存性思春期早発症を三主徴とするマッキューン・オルブライト症候群(MAS)を招きますが、その生殖細胞由来機能亢進変異の報告は皆無であり、MASの重篤さと併せて、胎生致死とされてきました。私たちは、世界で初めてGNAS-Gs α の生殖細胞由来機能亢進変異を抗利尿不適合性腎症候群の2家系で発見しました。これは、従来のGNAS-Gs α 生殖細胞由来機能亢進変異が胎生致死であるという概念を覆し、新しい遺伝性腎疾患を樹立する成果です。この成果は、IRUD研究全体の中でも代表的成果として認められ、成果報告会で紹介されました。

主たる成果-2:難治性てんかん責任遺伝子CNPY3の発見(図2)

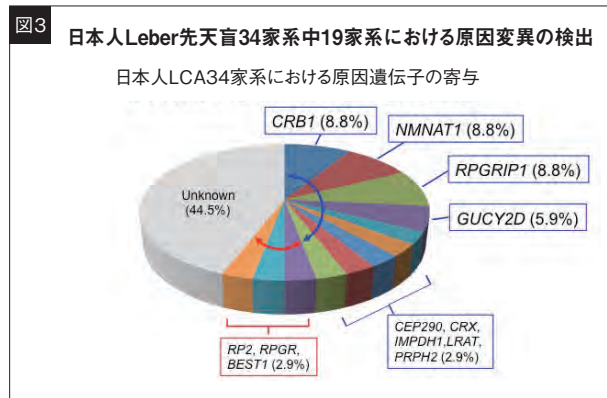
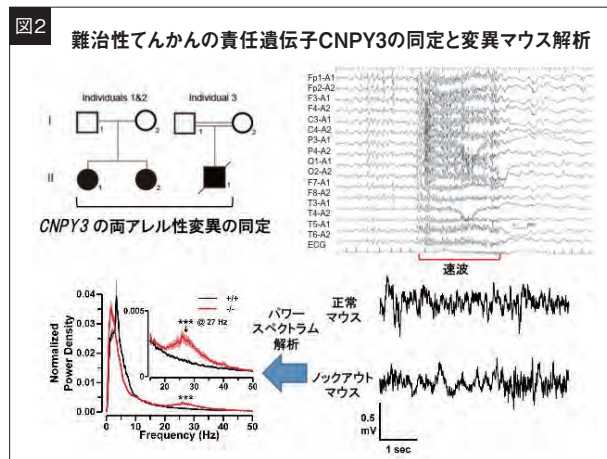
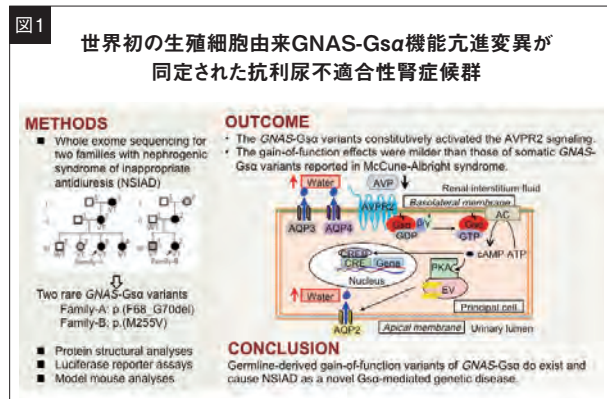
小児期早期に発症する難治性てんかんの責任遺伝子CNPY3を発見しました。この遺伝子が産生するタンパク質は小胞体に局在し、自然免疫に重要なToll様受容体タンパク質などの正しい折り畳みと細胞内の分布に関与することが知られています。患者で認められる所見と類似する脳波異常がCnpy3ノックアウトマウスで観察されており、このマウスモデルを用いた病態解明が期待されます。この成果は、メディアでも取り上げられ、大きな反響をよびました。

主たる成果-3:Leber先天盲(LCA)の網羅的遺伝子解析(図3)

Leber先天盲(LCA)は、高度に視機能が障害される遺伝性網膜疾患で、LCAのいくつかの遺伝子異常に対して、アデノ随伴ウイルスベクターによる遺伝子治療の治験が欧米で進行中です。われわれは、わが国のLCA 34家系39人に対して次世代シーケンサーによる遺伝子解析を行い19家系から原因変異を検出しました。遺本研究はわが国の今後の遺伝子治療を考える上で必要な情報を与えるものです。

難治性疾患拠点病院を目指して

私たちが、これらの研究を介して目指すものは、本学が難治性疾患拠点病院となることです。遺伝子解析は、すべての疾患で共通であり、遺伝子解析および同定された変異の機能解析による疾患成立機序の同定や治療可能な疾患の同定、そして、新規治療法の開発に挑みたいと思います。



新 任 職 員 の 紹 介

NewStaff Introduction



放射線診断学・核医学講座 教授

五島 聡

平成31年4月1日付で放射線診断学・核医学講座教授を拝命致しました。

私は岐阜県岐阜市で生まれ育ち、県立岐阜高校、島根大学医学部医学科を卒業後、平成12年4月から岐阜大学放射線科で画像診断とIVR治療(カテーテル治療)に従事して参りました。私が卒業した島根大学医学部では本邦初となる生体肝移植が行われた経緯から、学生の頃に肝臓学に興味を持ち、画像診断の道に進んでからも、特に肝臓のCT/MRI診断を中心に、臨床と研究に励みました。平成19年には世界で最初に生体肝移植を行った米国Pittsburgh大学へも留学しました。



臨床看護学講座 教授

木戸 芳史

平成31年4月付で臨床看護学講座(精神看護学領域)の教授を拝命いたしました。本学では数少ない看護師の資格と経験を有する男性教員の1人です。

私は福岡県八女市の生まれですが、幼少期から高校時代までは東京で暮らしていました。今でこそ市民権を得た男性看護師が「看護師」と呼称され、世の中の認知度がまだまだ低かった時代に看護学を学び、卒後は首都圏の精神科病院を中心に臨床活動をしてきました。その後、東京大学大学院の博士課程を修了し、教員として聖路加国際大学、三重県立看護大学を経て、この浜松

【専門分野】公衆衛生看護学

令和元年5月1日付で地域看護学講座(公衆衛生看護学)教授を拝命いたしました。着任して2ヶ月になりますが大変温かく迎え頂き感謝しております。私の出身は千葉県で、県立千葉高校、千葉大学を卒業し、虎ノ門病院で助産師、IT企業で保健師として勤務後、東京大学大学院にて地域看護学を専攻し、研究教育の道に進みました。学位取得後は、東京大学、名古屋大学で保健師教育に携わりつつ、産業保健領域において就労と家庭生活(特に子育てというケア役割)の両立に伴うストレスの解明や、職場・行政からの支援



地域看護学講座 教授

渡井 いずみ

昨年まで勤務しておりました岐阜大学は県内唯一の三次救急病院としての側面もあり、救急医の先生方とは密な連携のもと、主に高エネルギー外傷などに対するIVR治療にも365日対応して参りました。今回、浜松医科大学、放射線診断学教室、関連病院の方々に暖かく受け入れて頂き、誠に感謝申し上げます。今後、静岡県内の医療の発展に微力ながら貢献出来るよう尽力して参りたいと思います。皆様方には今後もご指導を頂けますようお願い申し上げます。

の地にお世話になることになりました。

私の主たる研究テーマは「精神科訪問看護」や「精神科多職種アウトリーチ」、若かりし頃の臨床活動で抱いた「どのような看護を在宅で提供したら、患者様は入院・再入院せずに住み慣れた場所で暮らし続けられるだろうか」という疑問を基盤にしています。まだまだこのテーマに対する十分な答えは出せていませんが、浜松を拠点に少しでも教育・研究で寄与できたらと思っています。

お気軽にお声掛けください、どうぞ宜しくお願い致します。

のあり方、という研究テーマに取り組んできました。

本学の地域看護学講座は、特に産業看護領域における保健師教育や研究において先駆的な存在であります。前任の巽先生とも女性労働者への健康支援、という共通の関心テーマで長らく交流させて頂きました。この良き伝統を継承しつつ、健康長寿浜松市や静岡県の地域医療構想に貢献できるような行政保健師の育成にも力をいれ、良質な保健師実践に資する研究に尽力していきたいと思っています。皆様のご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

NewStaff Introduction



形成外科 特任教授
深水 秀一

新しく着任したわけではありませんが、このたび形成外科特任教授を拝命しましたのでご挨拶申し上げます。平成19年に診療科として独立した形成外科を新しく立ち上げ、はや12年を過ぎました。当時4人で始まった当科は、平等と多様性を重視した医局の雰囲気が入り込んだのか、毎年のように入局者が増え、現在30人を超える医局員が県内を中心に働いています。

形成外科は、何らかの原因で失われた組織や臓器を元に戻す再建外科として、外科学における立場を築いてきました。先天的あるいは後天的に欠損や変形した身体のあらゆる部分

を修復・再建して、整容と機能の両面を回復することを目的としています。従ってその守備範囲は広く、頭のとっぺんから足の先まで、そして頭蓋や頭頸部、胸腹部、骨盤へも及びます。また、外科的手技だけでなく、再生医療の知識と技術を駆使した治療法も用いながら治療しています。そのため、多くの職種や診療科と協力することが重要になります。

私自身はあと半年あまりで定年を迎えますが、診療のみならず、基礎的研究や臨床的研究を含め、学内の各領域の方々に引き続きご指導をお願いする次第です。



小児外科 特任教授
川原 央好

平成31年4月1日付で小児外科特任教授を拝命いたしました。私は大阪市出身で、昭和55年に大阪大学医学部を卒業後、大阪大学小児生外科や大阪母子医療センターで小児外科医としての研鑽を続け、平成25年に独立した診療科となった本学小児外科に特任准教授として赴任しました。

私は30年以上にわたって重症心身障がい児（重症児）の診療に携わってまいりました。重症児は胃食道逆流症（GERD）をはじめとする様々な消化管運動異常のためにQOLが損なわれます。GERDの外科治療を重ね、本格的研究のために

平成4年に文部科学省在外派遣研究員としてAdelaideに留学し、John Dent教授の師事を受けました。GERDの研究がライフワークとなり、六君子湯のGERDに対する有効性を明らかにしたことを契機として漢方を学ぶようになりました。現在は腸内細菌叢の異常が様々な機能的消化管症状に繋がっていると考え、prebioticsやprobioticsを使った臨床に力を注いでおります。

定年まで2年ですが、本学の小児医療の発展に少しでも貢献できればと考えておりますので、皆様のご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。



総合人間科学講座（倫理学）
准教授
長田 怜

令和元年7月1日付で総合人間科学講座（倫理学）准教授を拝命いたしました。浜松出身ですが、高校卒業後は哲学を志して学部・大学院ともに東京大学に学び、その後は関東の大学を中心に哲学・倫理学の研究・教育にたずさわってきました。23年ぶりに地元へ、しかもこの仕事で戻ってこれることを大変嬉しく思います。

自然科学が「…である」（事実）を探究する学問なら、哲学・倫理学はそれだけでなく、「…すべき」（規範）も明らかにする学問です。私がたずさわってきたのは、科学技術の研究開発や医療現場に求められる「…すべき」です。それには大きく

2つあって、1つは「真理解明には…すべき」という科学方法論の問題、もう1つは「倫理的に…すべき」という倫理的規範の問題です。

本学着任となり、日ごろこれらの問題と格闘されている先生方や学生みなさんと身近に接する機会が得られました。生きた現場から学ぶことによって、これまでにない規模での研究の進展を期待でき、また、責任ある教育の機会をもてることに、大いなる喜びを覚えています。同時に、地元浜松への貢献の思いも胸に、この貴重な環境のもと、研究と教育に邁進してまいります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



皮膚科学講座 准教授
伊藤 泰介

平成31年4月、皮膚科学講座の准教授を拝命いたしました。平成7年に産業医大を卒業し、瀧川雅浩教授（現・名誉教授）、古川福実助教授（現・和歌山県立医科大学名誉教授・高槻赤十字病院院長）、白濱茂穂講師（現・聖隷三方原病院院長補佐）、戸倉新樹講師（現・教授）がおられた浜松医科大学皮膚科に入局しました。県立総合病院にて研修後、平成9年に助教として戻り、DLEモデルのNZB/KNやSLEモデルのMRL/lprマウスを用いた自己免疫性脱毛の研究を開始し、同年、脱毛症専門外来を立ち上げました。平成14年から2年間、ドイツ・ハンブルグ大学にて毛髪組織

の免疫研究をしたのち、平成16年、脱毛症外来を再開し、全国各地からご紹介いただいております。また円形脱毛症モデルC3H/HeJマウスの研究、アトピー性皮膚炎など皮膚免疫疾患を臨床、研究対象としています。

歴代教授のお力により静岡県内は当講座の関連施設が数多くあり、地域連携体制が整っていると感じます。生物学的製剤、免疫チェックポイント阻害薬など急激に変化する新しい治療、増加する皮膚悪性疾患への対応を含めこれからも静岡県の医療や医学教育の向上のために努力する所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。



長寿運動器疾患教育研究講座
特任准教授
大和 雄

平成31年4月1日付で長寿運動器疾患教育研究講座の特任准教授を拝命いたしました。平成9年に本学を卒業した後、本学整形外科科学講座に入局し運動器診療に研鑽を積んでまいりました。この10年間は多様化している整形外科のなかでも脊椎脊髄外科を専門として、大学病院で難治性疾患に対して手術を中心とした治療を行ってきました。しかし、悪化してしまった運動器疾患に対する加療には限界があり、医療経済の観点からも予防医学の重要性を認識しました。高齢者が要介護、要支援となる原因の4分の1を占める運動器疾患に対する対策が急務です。健康寿命の延伸のためにはどの

ように運動器の健康を推進していくべきかはまだまだわかっておりません。また、日本整形外科学会が提唱しているロコモティブシンドロームを予防するための運動器に関する予防医学の知識と診療能力を有する医師の養成が重要です。静岡県や地域の高齢者運動器疾患の予防医学に貢献できるよう努めて参りますので、ご指導よろしくお願いいたします。



子どものこころの
発達研究センター 特任准教授
高橋 長秀

【専門分野】精神医学／発達障害／遺伝子解析

平成31年4月1日付で子どものこころの発達研究センターの特任准教授を拝命いたしました。出身は福岡で、平成12年に名古屋大学医学部、平成19年に同大学大学院精神生物学分野を卒業し、ニューヨーク市のマウント・サイナイ医科大学にて精神科・自閉症センターのインストラクターとして、主に精神疾患の遺伝子解析と動物モデルの研究を行なっておりました。大好きな研究が思い切りできて、週末はニューヨーク郊外の豊かな自然の中で、家族でゆっくりと過ごす生活が楽しく、5年ほど米国で過ごしました。

その後、帰国して外資系製薬企業に入社し、自閉

症、ADHD、統合失調症などの臨床試験の医学専門家を務めましたが、新薬を世に送り出すという大変貴重な経験をさせて頂きました。父が急逝し、一時実家のクリニックの院長として勤務しておりましたが、単身赴任の寂しさに耐えられず、平成28年より浜松市内の朝山病院で発達障害の臨床に従事していました。この度、センターの武井教授・土屋特任教授、精神科の山末教授など多くの方々のご支援で、再びアカデミアでの研究に携わる機会を頂いたことを心から嬉しく思っております。子どもの健やかなこころの発達のために、臨床に還元できる科学的な知見を見いだしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

講座・研究室

紹介

Department・laboratory
introduction



ウイルス・寄生虫学講座

どんな研究をしていますか？

肝炎ウイルスの複製増殖と病態発現の分子メカニズムを解明するための研究を行っています。また、蚊媒介性フラビウイルスの感染病態動物モデルの構築とそれを用いた病態発現機構の解析を進めています。さらに、他大学、研究機関等との共同研究で、高感度のウイルス診断技術や抗ウイルス薬の開発研究を行っています。



改修された実験室で研究室メンバー集合写真

他の講座にはない特徴を教えてください。

ウイルスは生物ではないので、何らかの細胞へ侵入しその細胞が持っている様々な機能を利用、時にハイジャックして複製増殖します。そのため、ウイルスの生活環を理解するためにはウイルスと細胞がどのように連携、相互作用するかを多角的に解析する必要があります。また、ウイルス感染からの病態発現機構を解明するためには、ウイルス侵入に伴う細胞内環境の攪乱、恒常性の破綻またウイルス感染に対する宿主応答による免疫病態を分子レベルで解明することが重要です。これらを研究着想の基盤としています。

生物学の歴史の中では、ウイルス研究の成果が個別の感染性因子の理解だけでなく普遍的原理を編み出し生命科学全体の発展に大きく貢献したケースがいくつもあります(逆転写、RNAスプライシング、翻訳開始機構、癌遺伝子、細胞融合など)。我々も「あわよくば」と密かに大望を抱いています。



共同研究仲間の先生方との作戦会議&情報交換

麻酔・蘇生学講座

どんな研究をしていますか？

動物モデルを用いて侵襲に対する麻酔薬の保護効果とそのメカニズムの解明を目標として研究しています。ラットを使用し血管内皮におけるグリコカリックスが血管透過性にどのようなメカニズムで関与しているか、電子顕微鏡による解析を行っています。脳動脈瘤モデルマウスを使用し脳動脈瘤破裂予防のメカニズムを解析しています。そしてブタを使用し出血をはじめとした侵襲に対する麻酔薬、循環作動薬の薬物動態薬力学的解析を行っています。



学生、研修医にシミュレーション教育を行う中島教授(写真左)

他の講座にはない特徴を教えてください

麻酔・蘇生学講座は痛み、手術侵襲から患者を守るために周術期管理をはじめ医療安全、学生教育の各分野に力を入れています。侵襲からの負担を軽減するために全身麻酔に加えて神経ブロックをはじめ疼痛管理を重視した麻酔を行っています。特に小児麻酔では硬膜外麻酔を積極的に行っています。集中治療部では手術患者のみならず院内院外からの救急患者を受け入れて日夜診療に当たっています。無痛分娩は安全に出産ができるお手伝いをしています。学生研修医教育では特にシミュレーション教育に力を入れています。周術期医療は時に事故に結びつくことがあるため、医療安全では未然に事故を防ぐための仕組みを構築しています。麻酔科学の根底にある患者安全に資することを目標に他職種と連携をとりながら仕事をしています。



神経ブロック講習会の集合写真

学会賞等受賞

平成31年1月1日～令和元年7月31日

賞の名称	受賞年月日	受賞者	受賞内容(研究題目)
第59回日本呼吸器学会 学術講演会演題賞 優秀賞	平成31年 4月12日	第二内科 助教 藤澤 朋幸	特発性間質性肺炎におけるクラウド型臨床・画像・病理統合データベースを用いた遠隔MDDの有用性
第3回 マルホ・高木皮膚科学 振興財団 高木賞	平成31年 4月21日	皮膚科学講座 准教授 伊藤 泰介	抗NKG2D抗体を用いた円形脱毛症に対する新規治療法の開発
第18回 日本内分泌学会 学会賞	令和元年 5月10日	小児科学講座 教授 緒方 勤	小児内分泌関連疾患の臨床および分子遺伝学的研究
第10回日本プライマリ・ケア 連合学会学術大会 最優秀発表賞(学生セッション/口演)	令和元年 5月18日	医学部医学科4年 青木 大祐	在日ブラジル人生徒のインターネット依存症に関する調査(質問紙を用いた横断研究)
第58回 日本消化器がん検診学会総会 一般演題優秀賞	令和元年 6月7日	臨床研究管理センター 病院教授 古田 隆久	自己免疫性胃炎の血清診断法
第118回日本皮膚科学会総会 優秀演題賞	令和元年 6月8日	皮膚科 医員 田嶋 瑞帆	A case of multiple fixed drug eruption caused by topical ophthalmic solution
日本小児科学会 Pediatrics International 2018 Best Reviewer Award	令和元年 6月13日	小児外科 特任教授 川原 央好	日本小児科学会英文誌 Pediatrics Internationalの2018年度査読
第39回日本弱視斜視学会 中川賞	令和元年 6月14日	眼科 医員 鈴木 寛子	Changes in conjunctival-scleral thickness after strabismus surgery measured with anterior segment optical coherence tomography
第62回関西胸部外科学会 学術集会 Best Case Presentation Award	令和元年 6月14日	第一外科 診療助教 津田 和政	Shaggy Aortaに対するOn-pump TEVAR-塞栓症回避のための工夫を尽くした1例-
第15回日本小児眼科学会賞	令和元年 6月15日	眼科学講座 助教 細野 克博	Molecular diagnosis of 34 Japanese families with Leber congenital amaurosis using targeted next generation sequencing
第41回日本血栓止血学会 学術集会 一般演題優秀賞	令和元年 6月21日	医生理学講座 准教授 鈴木 優子	thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor 活性化機構の時空間的解析
第41回日本血栓止血学会 学術集会 一般演題優秀賞	令和元年 6月21日	医生理学講座 助教 本藏 直樹	最尖端生体光学イメージング技術を用いた新規血管分類法と動的な血管機能の評価
第24回日本緩和医療学会 学術大会 優秀演題賞	令和元年 6月21日	看護部 副看護部長 平野 美佳子	A大学病院外来初診患者を対象とした苦痛のスクリーニングから見てきた現状と課題
第115回 日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞	令和元年 6月21日	大学院医学系研究科 (博士課程)3年 精神医学講座 加藤 康彦	自閉スペクトラム障害におけるメタボロミクスの特徴とオキシトシンによる変化について
第81回耳鼻咽喉科 臨床学会総会・学術講演会 学会賞	令和元年 6月27日	耳鼻咽喉科 診療助教 遠藤 志織	鼻すすり癖からみた耳管開放症の病態と治療法
日本応用数理学会 2019年 研究部会連合発表会 優秀講演賞	令和元年 6月28日	光先端医学教育研究センター フォトンクス医学研究部 生体医用光学研究室 指定講師 町田 学	解析解に基づく輻射輸送方程式の数値計算
Annals of Nuclear Medicine Frequently Cited Paper 2018	令和元年 7月	光先端医学教育研究センター フォトンクス医学研究部 生体機能イメージング研究室 特任研究員 寺田 達弘	Extrastriatal spreading of microglial activation in Parkinson's disease: a positron emission tomography study
第20回 日本法中毒学会 吉村賞(学術奨励賞)	令和元年 7月2日	法医学講座 准教授 長谷川 弘太郎	解剖試料を対象とした危険ドラッグ等の乱用薬毒物の死後体内分布・再分布に関する研究

第11回World Congress of Hair Researchに出席して

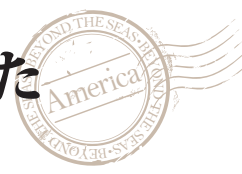


皮膚科学講座 准教授
伊藤 泰介

海のむこうで

Beyond the Sea

海と砂浜に囲まれた ハワイ実習



医学部医学科6年生
呉 立群



▲ WCHR2019での発表



▲ Sitgesの海岸

第11回世界毛髪研究会議「World Congress of Hair Research(WCHR2019)」が平成31年4月24～27日、スペインバルセロナで開催されました。WCHRは米国、欧州、日本、韓国、オーストラリアなど毛組織の研究を先行する各Societyが数年おきに開催している毛組織の基礎と臨床の研究学会で、世界の毛組織研究の成果が集まる有意義な学会です。毛髪研究は、円形脱毛症などの病態理解を主とする免疫研究、再生や幹細胞に関連する分野、ホルモン関連研究、毛組織発生、毛周期、先天性毛髪疾患、瘢痕性脱毛症関連の研究など様々な基礎研究分野があります。

今回、私は毛髪疾患のシンポジウムのシンポジストの一人として「円形脱毛症とアトピー性皮膚炎の関係性」についての講演を依頼され発表してきました。円形脱毛症は基本的にはIFN- γ やIL-15などが病態に関わるサイトカインとされTh1病という理解がなされてきましたが、実臨床ではTh2病であるアトピー性皮膚炎の合併も少なくなく、アトピー性皮膚炎治療薬である抗ヒトIL-4/13受容体モノクローナル抗体(デュピルマブ)投与による円形脱毛症の改善例を経験し、私たちが合併例のサイトカインバランスなどを研究しています。

これまで私は、WCHR2015(マイアミ)やWCHR2017(京都)でもシンポジストを務めさせていただき、だいたい国際的な毛髪研究者にも知り合いが増えてきました。とくに世界的

権威であるAngela M. Christiano先生、イスラエルのAmos Gilhar教授や、ドイツのMarta Bertoliniさん、韓国のChang-Hun Huh先生などたくさんの友人ができました。こうした縁もあり韓国毛髪学会 KHRsの年次集会や世界皮膚科学会(World Congress of Hair Research 2019)にも招聘されるなど、各研究者に再開しお互いの研究などを話し合ってきました。こうした関係は共同研究にも発展しており、世界をまたぐ良い機会となっています。

今回はバルセロナ中央から西へ30kmほどにある海岸沿いのリゾート地であるSitges(シッチェス)というのどかな町で開催されました。学会の空き時間にホテルから海岸沿いに歩いてPlatja de Sant Sebastiàという海水浴場にでてみました。まさに南欧リゾートそのもので、ゆったりとした時間が流れていました。海岸

沿いの小さな美術館マリセル美術館に入ってみると、歌川広重による私の故郷、島田市の「越すに越されぬ大井川」の絵が飾ってあり、思わず許可を取って写真をとりました。一方で学会場のホテルロビーでは、私のすぐ横にいた日本人関係者が現地人にスペイン語で話しかけられ、実はもう一人いた別の者にロビーの床に置いていた彼ら2名分のバッグが盗難にあいパスポートや財布一式紛失するといったこともありました。

WCHRは数年ごとに世界各地で開催され、世界の友人に再会し現地を楽しむことができ、そこで発表するためにも研究を頑張るという良い動機付けになっています。また各研究者の演題やポスターはとても勉強になります。ここで得られた情報、知識を目の前にいる日々の患者さんに還元するためにこれからも頑張りたいと思います。



▲ Christiano教授



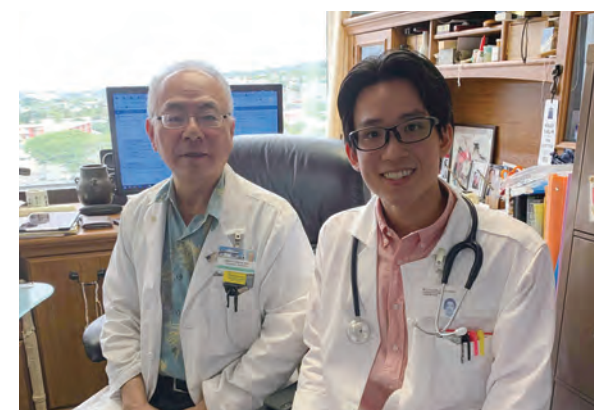
▲ Gilhar教授



▲ マリセル美術館にあった歌川広重の絵



▲ 日本からの留学生と筆者(左から2人目)



▲ 渡慶次先生と筆者

平成30年4月下旬から4週間、6年生の選択ポリクリの一環として、協定校であるハワイ大学の関連病院のKuakini Medical Centerで実習させていただきました。

Kuakini Medical Centerはホノルル市内にあり、ワイキキからバスで約30分の場所に位置する、日系移民によって建てられた200床ほどの中小病院です。患者さんも医師も日系の方が多く、患者さんの年齢層も比較的高齢な印象を受けます。そのため、老人ホームやPhysicians Towerなどが病院に隣接しており、患者さんを包括的に診ていけるような施設が揃えられています。

ハワイ実習での4週間の内、初めの1週間は渡慶次先生のプライベートクリニック残り3週間はKuakini Medical Center(KMC)の総合内科チームで実習させていただきました。

【渡慶次道場】1週目、プライマリー・ケア

渡慶次先生のプライベートクリニック、別名「渡慶次道場」では臨床スキルを磨き上げられるのみならず医師としての在り方などを気付かされる場でもありました。渡慶次先生はハワイで長年家庭医として働かれ、ハワイ大学医学部の Assistant Professorとしての地位も獲得しておられます。教育に対しても熱心であるため、様々な国の学生や若手の先生方を渡慶次先生自身のクリニックに招いては、アメリカの医療をしっかりと、丁寧に教えています。先生は毎朝4時台に病院に来て患者さんの様子を伺い、学生に朝の講義をしてから外来業務を行います。日曜日にも休まず、きっちり病院に来てから長年の趣味である居合の稽古を行い、近隣のナーシング・ホームなどへの回診を行っています。この年中無休の診察を何十年も継続されています。先生の臨床に対する熱意や、患者さんに対する真摯な姿勢、「医師は常に患者さんの servant でなければならない」といった価値観には学ばせていただくことが多かったです。

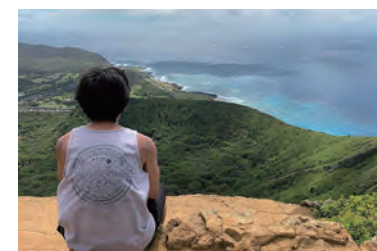
【Kuakini Medical Center (KMC)】2週目～4週目、内科

一週間の渡慶次道場を経て、2週目～4週目は渡慶次先生のクリニックに隣接するKuakini Medical Center(KMC)での3週間の内科実習でした。ハワイ大学の内科レジデンス・プログラムと提携しており、ローテーションの一貫でレジデント達がこの病院でトレーニングを積むことになっています。内科チームA～Dの4グループに分かれており、それぞれアップパー・レジデント(PGY 2又3)、1st レジデント(PGY1)、医学生(ハワイ大学M3-4)、オブザーバー(私たちのような海外の医学生や医師)の4人編成で成り立っています。

一日のスケジュールとしては、朝6時台に各グループで自分たちの担当患者の回診(pre-round)を行い、チーム内で治療方針を決めます。その後、朝9時ぐらいから各患者を担当する指導医(院内のホスピタリスト)に患者の状態や治療プランなどを報告・相談に行きます。この指導医へのプレゼンテーションは基本的には毎日行われ、私も何回か発表させてもらう機会を与えて頂きました。プレゼンテーションの内容はすべてフォーマットが決まっており、無駄がないため、発表内容も聞き取りやすく、的確に指導医に重要なことだけを伝えられるような形式になっています。基本的に入院患者の管理がすべてですが、4日に1回のオンコールの日は救急からの入院患者を新規にチームで担当することになっており、その場合、救急室に患者が入ってきた時点から問診や全身の身体診察をチームが任されます。

【ハワイ生活】

1年中温暖なリゾートであるハワイには多くの観光客が訪れます。ワイキキなど中心地はショッピングや食事などを楽しむには最適で、綺麗なビーチなど自然へのアクセスも容易であり、多くの観光客が訪れる理由を肌で感じることができます。私も空き時間にワイキキに出向いて買い物をしたり、同じく日本より研修にきている医学生とともにツーリングやハイキングに出かけたりとハワイを満喫しました。



▲ ココヘッド・ハイク



▲ ハワイでのツーリング(筆者は一番左)

【最後に】

今回の研修では多くの新しい出会いがあり、彼らから沢山のインスピレーションを頂きました。同じく日本からきた医学生たちはそれぞれ独特のバックグラウンドを持ち、高い志を持って生きており、彼らとは1ヵ月の短い付き合いでしたが、互いに良い友人になれたと思います。最後に、今回の研修に関わってくださった先生方、コーディネーターの方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。この経験を糧に、さらに成長していきたいと思っています。

主催学会 シンポジウム

第2回薬理ゲノミクスセミナーの開催報告

臨床研究管理センター 病院教授 古田隆久

第2回薬理ゲノミクスセミナー（日本臨床薬理学会との共催）を平成31年2月24日に浜松市医師会館7階講堂にて開催しました。セミナーのタスクフォースメンバーは、安藤雄一先生（名古屋大学）、寺田智祐先生（滋賀医科大学）、蒔田泰誠先生（理化学研究所）と筆者でした。参加者の約半数が静岡県外（北は北海道、南は大分県）からでした。

講演1（蒔田先生司会）のタイトルは「薬理遺伝学（ファーマコゲノミクス）総論」で慶應義塾大学医学部医学研究科臨床薬剤学の谷川原祐介先生が担当。講演2（寺田先生司会）は「がん薬物療法における薬理遺伝学の



▲ 講師左から、谷川原祐介先生、辻大樹先生、金井雅史先生、岩泉守哉先生、福江美咲先生

実際」で静岡県立大学薬学部臨床薬効解析学の辻大樹先生が担当。講演3（安藤先生司会）は「がん細胞の網羅的遺伝子解析（クリニカルシーケンス）の現状と解釈 〜がん遺伝子パネル検査はどのように日常臨床に役に立つのか〜」で、京都大学大学院医学研究科腫瘍薬物治療学の金井雅史先生が担当、そして 講演4（筆者司会）は「実臨床における諸問題」というタイトルで、本学臨床検査医学の岩泉守哉先生が担当しました。

最後のセッションで、本学遺伝子診療部の福江美咲先生が「遺伝カウンセリングの実践」という題目で講演し、引き続き、遺伝性腫瘍の症例を題材に7〜8名程度のグループに分かれ、様々な観点からディスカッションがなされ、最後にその内容について発表し合い内容を共有しました。アンケートの結果より、参加者の満足度も高く、次年度も開催する予定です。



▲ グループディスカッションの様子

日本臨床検査医学会第11回特別例会を主催して ― 4年に1度の日本医学会総会に合わせた特別例会 ―

臨床検査医学講座 教授 前川 真人

日本臨床検査医学会は、日本医学会に加盟しており、4年毎に開催される日本医学会総会に合わせて、特別例会を開催しています。今年は名古屋開催だったこともあり、東海北陸支部を代表して例会長を務め、4月13日（土）、名古屋国際センターで開催致しました。テーマを「臨床検査医学、次のディメンションの幕開け」としましたが、今回が11回目の例会なので、10回という節目を過ぎた次の10回の第一歩と考えたからです。



シンポジウムは、「臨床検査医学、研究と臨床のニューホライズン」と「Good Laboratory Management 2019、プレジジョン・ラボラトリーの

管理・運営」を企画致しました。臨床検査医学の学術的（研究、臨床）な面と検査部の管理運営という業務的な面を二本の柱に致しました。特別講演は、本学皮膚科学講座の戸倉教授に皮膚科診療と臨床検査について、ランチョンセミナーは東京医科大学の落谷教授にマイクロRNAの話を中心としたがんの予防と早期発見について講演いただきました。例会長講演は「臨床検査の品格と品質」について話しました。

図らずも平成という元号での最後の月の例会となり、まさに次の新しいディメンションへの幕開けにふさわしい例会になったと思っております。全体で我々スタッフも含めて、およそ150名強の参加者を数え、盛会で幕を閉じました。



第19回慶北ー浜松合同医学シンポジウム



6月4日（火）に韓国の大邱市において、「第19回慶北ー浜松合同医学シンポジウム」を開催しました。

同シンポジウムは、慶北大学校医科大学及び看護大学と締結した学術交流協定に基づき、平成13年度から韓国大邱市と浜松市で毎年交互に開催しています。

今回は、6月3日（月）に本学の今野弘之学長他28名が大邱市を訪れ、同夜のレセプションパーティーでは盛大な歓迎を受け、両大学関係者の交流を深めました。

翌4日（火）は慶北大学校医科大学にてJong Myung Lee医科大学長、Hee-Sook Kim看護大学長、本学 今野弘之学長の挨拶でシンポジウムが開会し、20演題の口頭発表と18演題のポスター発表では活発な意見交換が行われました。シンポジウム終了後は新たに建設された第二キャンパスを見学しました。

両大学は、今後も引き続き協力し、学術・文化交流を推進していくとともに、医学・看護学の発展に寄与していくこととしています。



第44回日本小児眼科学会総会

眼科学講座 教授 堀田 喜裕

第44回日本小児眼科学会総会を、令和元年6月14日（金）・15日（土）の両日にわたり、アクトシティコンgresセンターと中ホールで開催しました。今年は、大阪市立総合医療センターの横山連先生が会長を務める、第75回日本弱視斜視学会総会との合同開催になりました。14日の一般講演では、話題のデジタルデバイスと斜視についてのセッションを設けました。日本小児眼科学会では初めての試みとして、15日に国際シンポジウム「The APSPOS (Asia-Pacific Strabismus and Pediatric Ophthalmology Society) Symposium」を企画しました。佐藤美保病院教授のご尽力で、アジア太平洋地域で活躍する先生方にご登壇いただきました。同時通訳を準備したとはいえ、アクトシティの中ホールがいっぱいになり、APSPOSのリーダーの先生方に面目がたちました。特別講演は、名古屋大学の寺崎浩子先生に、「重症小児網膜疾患治療の軌跡と次世代への模索」と題してご講演いただきました。シンポジウムは、各関連学会が進めている小児

眼疾患のスクリーニングを取り上げました。第31回日本小児眼科学会講習会は、小児眼科領域の炎症性疾患をテーマとして、700人を超える方にご参加いただきました。教室の鈴木寛子先生、細野克博先生が、それぞれ日本弱視斜視学会賞、日本小児眼科学会賞を受賞したことは嬉しいことでした。

事務局長を務めた彦谷明子先生、町田智子さんをはじめとしたスタッフの心がけのおかげか、心配していた天候にも恵まれました。1,400人を超える参加者があり、盛会裡に終了することができました。



▲ 運営スタッフで記念撮影

第4回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会を開催して

理事（企画・評価担当）・副学長 渡邊 裕司



肺高血圧症の病態解明、治療法の確立にオールジャパンで取り組むべく平成27年に設立された日本肺高血圧・肺循環学会の第4回学術集会を、副会長の須田隆文教授、前川裕一郎教授とともに令和元年6月21〜22日の2日間、アクトシティ浜松コンgresセンターにて開催しました。学術集会のテーマには「肺高血圧症の未来を拓く」を掲げ、「日本発のエビデンスを創出し、世界の肺高血圧症患者の治療に貢献したい」という呼びかけの下、700名近い肺高血圧症に関わる全国の臨床医・研究者が参集し、熱のこもった討議が展開されました。

肺高血圧症は難治性希少疾患として知られており、学術集会では我が国の難病対策を担当する厚生労働省の宇都宮健康局長（当時）を始め、3名の海外演者による特別講演とともにアジア各国の専門家による自国の現状紹介

がありました。臨床試験で得られたエビデンスの積み重ねによって、肺高血圧症に対する薬物治療はこの20年間で着実に進歩を遂げ、患者の予後は大きく改善しています。一方、既存の治療薬に不応な患者も少なからず存在し、新たな治療薬や医療技術の開発が待たれています。今回の学会では、オールジャパンでのレジストリ構築や私たちが今後なすべき研究の方向性など多くの課題が議論されました。学会の様子は、日本経済新聞社や日本医事新報HP



でも紹介されていますのでご覧いただければ幸いです。本学術集会開催にあたり、ご支援いただいたすべての皆様に心から感謝申し上げます。

日本医事新報HP
学会の様子が
紹介されています。



NEWS

看護師特定行為研修センター 開講式・第1回入講式挙行

本学附属病院は、厚生労働省から「特定行為研修指定研修機関」に指定され、4月9日（火）に看護師特定行為研修センターの開講式ならびに一期生3名の入講式を執り行いました。

特定行為とは、研修を受けた看護師が、医師の手順書に基づき、一定の診療補助ができるもので、本院では集中治療領域8区分21行為の研修を行い、令和2年からは定員を30名まで増やすこととしています。

静岡県は医療需要が高まる一方で医師がまだまだ不足しており、医師不足を補ううえでも特定行為研修による高度な実践力をもつ看護師養成に、地域から大きな期待が寄せられています。



3月

3月6日(水) 国際交流のつどい

本学の外国人留学生・研究者がご支援いただいている地域の方々と交流するとともに、海外の大学で実習した学部学生の体験発表等を行いました。



3月6日(水) 新歓指導講話

「新入生歓迎に対するマナー・飲酒について」と題して星野学生委員会委員長による講話を行いました。

3月8日(金)

Student Doctor 称号付与式

医学科新5年次生114名に「Student Doctor」の称号を付与しました。

3月12日(火) 入学者選抜試験

平成31年度浜松医科大学入学者選抜試験(後期日程)を実施しました。



平成31年度
4月

4月8日(月) 入学式

平成31年度入学式を行い、医学部187名(医学科113名、医学科2年次編入学5名、看護学科62名、看護学科3年次編入学7名)、大学院医学系研究科博士課程33名および修士課程17名、そして昨年度より新たに設置した静岡大学との共同教育課程「光理工学共同専攻」の博士後期課程3名を迎え、計240名が入学しました。



4月9日(火)～13日(土) 新入生オリエンテーション

新入生オリエンテーション(ガイダンス、健康診断、合宿研修、情報リテラシー、福祉施設体験学習など)を実施しました。



5月

5月9日(木)・6月13日(木)・7月4日(木)・9月27日(金) English Café

留学生との交流促進を目的とした英語イベントを医学部学生が企画開催しました。学部学生・大学院生・研究者・教職員が参加し、充実した英会話を楽しみました。



5月10日(金)～11日(土) 滋賀医科大学との交流会

滋賀医科大学において第44回滋賀医科大学との交流会が開催されました。2日間の熱戦の結果、7勝6敗3引き分けで、本学の勝利で幕を閉じました。これで、本学の通算成績は、16勝22敗6引き分けとなりました。



5月25日(土)～7月14日(日) 東海地区国立大学体育大会

8大学による第68回東海地区国立大学体育大会(主管校：愛知教育大学)が行われました。

■総合成績
男子7位、女子7位
3位：硬式テニス部(女子)
弓道部(女子)

6月

6月3日(月) FD講演会・学生指導 担当者研究会

「私の大切なもの～パラリンピック・ボッチャ競技代表コーチとして～」と題して、日本ボッチャ協会強化スタッフ 内藤由美子氏による講習会を行いました。

6月3日(月)～14日(金) 授業開放

県内の高校生を対象に、令和元年度専門基礎科目等授業開放を実施しました。(参加者延べ560名)

6月7日(金) 開学記念行事

浜松医科大学開学記念日における記念行事を行い、約150名が出席しました。開学記念式典では今野学長による挨拶の後、静岡大学発ベンチャーの株式会社ブルックマンテクノロジー代表取締役 青山 聡 氏に特別講演として、「大学発・半導体・地方創生ベンチャーの挑戦」と題して講演いただきました。続いて、感謝状贈呈式、浜松医科学シンポジウム表彰式、名誉教授称号授与式を行いました。



7月

7月10日(水) 第1回 浜松医科大学 産連・知財セミナー

「研究者がおさえておくべき特許の基礎知識」と題して、特許の基礎知識や、医学研究におけるラボノートの重要性と書き方、活用術について、職員を対象にセミナーを開催しました。

7月12日(金) 病院サマーコンサート

学生管弦楽団によるコンサートが行われ、患者さんやご家族などが来場しました。



7月19日(金)～8月12日(月) 富士山衛生センターの 診療補助

富士山8合目に夏季期間中開設される、富士山衛生センターの診療補助者として、医学科および看護学科学生7名が従事しました。



7月22日(月) 院内マジックショー

学生奇術部による院内マジックショーが行われ、患者さんとそのご家族の歓声や拍手で盛り上がりしました。

7月25日(木) FD研修会
「大学教育・研究と著作権 ～著作権法改正を踏まえて～」と題して、弁護士・文化庁著作権課国際著作権参与 中城由貴氏による講習会を行いました。

8月

8月1日(木) 高校生 1日ナース体験

市内の高校生40人が「1日ナース体験事業」に参加しました。高校生は看護師のユニフォームに着替え、看護師とともに入院患者の身の回りの介助などを行いました。

8月5日(月) こころざし育成セミナー



医学部進学を目指す県内の高校生99名が「こころざし育成セミナー」に参加しました。金山病院長の挨拶の後、本学の3名の講師が、仕事の内容や医療の現状について説明しました。

8月5日(月)～19日(月) 西日本医科学学生総合体育大会

第71回西日本医科学学生総合体育大会(代表主管校：関西医科大学医学部)が行われ、44大学が参加しました。

■総合成績 20位

8月6日(火)～7日(水) オープンキャンパス

医学科と看護学科のオープンキャンパス(大学説明会)を行いました。全国から延べ686人の高校生が参加し、カリキュラムの特徴、入学者選抜方法の説明、模擬授業、在学生・卒業生の講演、個別相談などを行いました。



9月

9月10日(火)・18日(水)・25日(水) 地震防災訓練に係る 事前講習会

災害時の初期診療や情報通信などについて事前講習会を行いました。



9月10日(火)・18日(水) FD講演会

「アクティブラーニングの観点からのPBLチューターの役割について」と題して、PBL部門長 五十嵐寛特任教授(臨床医学教育学講座)による講演会を行いました。

9月30日(月) 学位記授与式

大学院医学系研究科博士課程3名、論文博士5名に学位記を授与しました。

サークル活動の記録

平成30年度(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

準硬式野球部	●春季県内リーグ 4位 ●東海地区国立大学体育大会 優勝 ●西日本医科学学生総合体育大会 出場 ●秋季県内リーグ 出場
男子硬式テニス部	●西日本医科学学生総合体育大会 3回戦進出 ●東海地区国立大学体育大会 1回戦敗退 ●東海医歯薬科学学生大会 1部リーグ4位
女子硬式テニス部	●東海地区国立大学体育大会 準優勝 ●西日本医科学学生総合体育大会 ベスト8 ●東海医歯薬科学学生大会 優勝
軟式テニス部	●西日本医科学学生総合体育大会 男子団体戦ベスト16 ●秋季東海医歯薬大会 男子団体 ベスト16 - 男子団体戦 決勝トーナメント 1回戦敗退
男子バスケットボール部	●近畿・中国・四国医科学学生バスケットボール大会 出場 ●春季東海医歯薬大会 出場 ●西日本医科学学生総合体育大会 出場 ●秋季東海医歯薬大会 出場
女子バスケットボール部	●春季東海医歯薬大会 出場 ●五大戦 出場 ●西日本医科学学生総合体育大会 出場 ●秋季東海医歯薬大会 出場
男子バレーボール部	●西日本医科学学生総合体育大会 ベスト16 ●新人戦 ベスト8
女子バレーボール部	●近畿医療系女子バレーボール大会 ベスト16 ●近畿医科学学生女子バレーボール大会 4位
バドミントン部	●西日本医科学学生総合体育大会 男子シングルス ベスト64 - 女子ダブルス ベスト8 ●東海医歯薬大会 男子シングルス ベスト32 - 男子ダブルス ベスト32 - 女子シングルス ベスト16 - 女子ダブルス ベスト16 ●近畿東海男子シングルス ベスト32
サッカー部	●春季東海医歯薬学生会大会 3位 ●東海地区国立大学体育大会 3位 ●西日本医科学学生総合体育大会 4位 ●秋季東海医歯薬学生会大会 優勝
ラグビー部	●東海北陸医歯薬ラグビー大会 優勝 ●西日本医科学学生総合体育大会 ベスト16
ハンドボール部	●西日本医科学学生総合体育大会 第3位 ●西日本医歯薬科学学生ハンドボール選手権 2部リーグ 3位 ●西日本医歯薬科学学生ハンドボール選手権 出場
剣道部	●年代別選手権 出場 ●浜北大 出場 ●十校戦 出場 ●中部医歯薬剣道大会 男子 決勝トーナメント進出 ●東海地区国立大学体育大会 出場 ●西日本医科学学生総合体育大会 出場 ●市民スポーツ大会 出場 ●若獅子杯 出場 ●関東医療系剣道大会 出場
ワンダーフォーゲル部	●富士山八合目の衛生センターにおける医療補助に従事
ヨット部	●浜名湖小春セーリングレース 出場 1位、2位 - 運営ボランティア ●浜松市民スポーツ祭セーリング競技 出場 1位、2位、3位 - 運営ボランティア ●静岡県立三ヶ日青年の家主催 一般向け「海洋体験教室」ボランティア ●浜松市教育委員会 教師向海洋実習 ボランティア ●西日本医科学学生総合体育大会 470級 7位 - スナイプ級 5位 - 総合 5位 ●HYA杯-浜名湖セーリングレース 出場 3位 - 運営ボランティア ●ヤマハ発動機主催 YMFSセーリング・チャレンジカップ 運営ボランティア
漕艇部男子	●第71回 朝日レガッタ 一般男子舵手付きフォア 予選敗退 ●関西学生新人レガッタ 滋賀医科大学との混成クルー「滋賀浜松医科大学」準優勝 ●西日本医科学学生総合体育大会メディカルレガッタ 一般男子舵手付きフォア 9位、12位
漕艇部女子	●西日本医科学学生総合体育大会メディカルレガッタ 一般女子舵手付きクオドルブル 6位
ゴルフ部	●西日本医歯薬戦 7位入賞
弓道部	●中部ブロック医科学学生弓道大会 男子個人 3位 - 女子団体Bチーム 3位 - 最優秀射技賞 ●東海地区国立大学体育大会 女子団体 3位、女子個人 優勝 ●西日本医科学学生総合体育大会 男子団体 準優勝 - 女子団体 準優勝 ●西日本看護学生弓道選手権大会 団体最多的中賞 ●全日本医科学学生体育大会王座決定戦 団体 3位、個人 7位、8位

弓道部	●東海医歯薬科学学生弓道大会 男子団体 準優勝、男子個人 優勝、第3位 - 女子団体Bチーム 準優勝、女子個人 第3位 ●静岡県下学生弓道選手権春季大会 男子個人 優勝、3位 - 女子団体Aチーム 準優勝、女子個人 4位
陸上競技部	●西部選手権 女子 棒高跳 3位 ●関西医科学学生対校陸上競技選手権大会 男子 1500m 3位 - 女子 走幅跳 2位 ●静岡県選手権 女子 棒高跳 2位 ●西日本医科学学生総合体育大会 男子 800m 6位 - 男子 走高跳 6位 - 女子 走幅跳 2位 - 女子 砲丸投 6位 - 女子 ハンマー投 4位 - 女子 フィールド総合 7位 ●関西医歯薬科学学生対校陸上競技大会 男子 1500m 4位 - 男子 110mハードル 6位 ●全日本インカレ 女子 棒高跳 出場
水泳部	●西日本医科学学生総合体育大会 出場 ●西日本コメディカル学生水泳競技大会 出場 ●東海地区国立大学体育大会 出場 ●中部学生短水路選手権 出場 ●中部学生選手権 出場
卓球部	●西日本医科学学生総合体育大会 男子団体戦 5位 - ダブルス ベスト16
合気道部	●医大祭にて演武 ●静岡文化芸術大学「碧風祭」にて演武
スキー・スノーボード部	●東海医科大学スキー大会 男子3km 2位 ●西日本医科学学生総合体育大会冬季大会 男子10km 5位
美術部	●医大祭にて作品展示 ●医大祭ステージ背景の看板制作 ●医大祭ポスター制作(デザイン)
茶道部	●医大祭にて出店 ●学校茶会参加
邦楽部	●医大祭での演奏会開催
四つ葉	●浜松筋ジストロフィーの患者さんとの交流会の実施 ●心臓病の子供を守る会の交流会の企画への参加 ●清明祭(児童養護施設)での学習支援ボランティア ●その他依頼のあったボランティア活動を行った
軽音楽部	●サクラクライブ ●新歓ライブ ●夏の東医音出演 ●六太祭(静岡大学の学園祭)に出演 ●医大祭ライブ ●クリスマスライブ ●冬の東医音出演
管弦楽団	●第38回定期演奏会(アクトシティ 中ホール) ●本学附属病院等でのコンサート ●本学入学式、学位授与式、解剖体慰霊祭、医大祭における演奏
写真部	●医大祭 写真展示
東洋医学研究会	●医学生・臨床医のための東洋医学セミナーへの参加 ●ソムラ主催の漢方セミナーへの参加 ●東百会への参加による他大学との交流 ●医大祭への出店
奇術部	●本学附属病院院内マジックショー ●広沢小学校学校祭でのマジックショー ●医大祭での子供向けマジックショー ●ススキ労働組合でのマジックショー ●こどものあそびば「LIMOLiMO(りもりも)もりた」でのマジックショー
つながり	●保健教育の実施 若宮保育園、みどり保育園、初生小学校、豊岡小学校、若宮こども園で実施 ●医大祭での展示・子どもたちに「お医者さん体験」をしてもらう 模擬診療を実施
囲碁将棋部	●第67回静岡県アマチュア名人戦 優勝 ●秋季中部学生団体戦 B級3位
国際交流サークルHOPE	●臨床留学での留学生(SCOPE) 4名受け入れ ●基礎研究での留学生(SCORE) 3名受け入れ ●本学学生表彰受賞
うなぎの会	●亀井道場の学生幹事として勉強会を運営
災害支援サークルLuce	●新入生合宿研修での新入生へのBLS講習会のサポート ●7月豪雨(岐阜県関市上之保)支援 ●避難所体験参加 ●本学附属病院防災訓練参加 ●医大祭にて募金活動 ●浜松北区de祭りにてブース出展 ●地域避難所運営訓練への参加

陸上競技部

Athletics Club

設立

1974年

部員数

33名

活動日程

週3回 月・水・金 17:00～19:00 @四ツ池公園陸上競技場



医学部医学科4年

小関 海都

陸上競技部の活動について

こんにちは。陸上競技部です。

浜松医科大学陸上競技部は、色々な目的のもとに集まった総勢33名の部員で仲良く活動しています。

「陸上をガンガンやりたい」という部員は7月の東海地区国立大学体育大会(東国体)、8月の西日本医科学学生体育大会(西医体)、全日本医歯薬獣医学大学対抗陸上競技選手権大会(全日本MDPV)、3月の静岡県府マラソンなどを目標に日々練習しています。全日本インカレに出場する選手から、自己ベスト更新を目指す選手まで、それぞれの目標に向かって練習を積み重ねています。



▲ 毎年1月には、長距離だけでなく短距離・フィールドの選手やマネージャーもリパティ駅伝(@藤枝・大井川)を走ります。



▲ 普段練習している四ツ池公園陸上競技場です。

◀ 第71回 西医体2019 (@大阪・ヤンマースタジアム長居)

また、「陸上競技」は敷居が高いけど、気軽な感じでランニングをしたい」というスタンスのHealthy jogger部門もあります。市民マラソン出場や健康作りなど、色々な目的で集まった人たちが楽しく一緒に走っています。

決して大きな部活ではありませんが、そのぶんひとりひとりの仲も良く、和気あいあいとした雰囲気です。陸上以外にも、夏のバーベキューや泊まり掛けの試合の翌日の観光、マラソンの後の温泉などなど、色々なイベントも計画しています。

また、陸上競技部の特色として、他大学の医学部陸上部との交流も多く、合同練習や試合などを通して、たくさんの他大学の学生と仲良くなることもできます。

活動は毎週月・水・金曜日の放課後17:00から2時間程度、四ツ池公園陸上競技場で行っています。

ぜひ、私たちと一緒に汗を流してみませんか。

CLUB Introductions サークル紹介

奇術部

Magic Club

設立

1995年

部員数

20名

活動日程

週1回(金)



医学部医学科3年

吉野 玄希

奇術部の活動について

こんにちは。奇術部です。

奇術部は毎週金曜日のお昼休みに部室で活動しています。部員は初心者がほとんどですが、在籍している上級生の指導や動画教材などで、マジックを引き継ぎ、マジックショーで場数を踏んでいくことで、手技も演技もだんだん上達していきます。

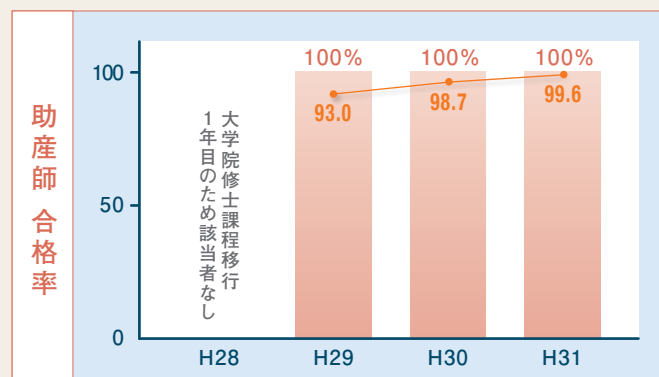
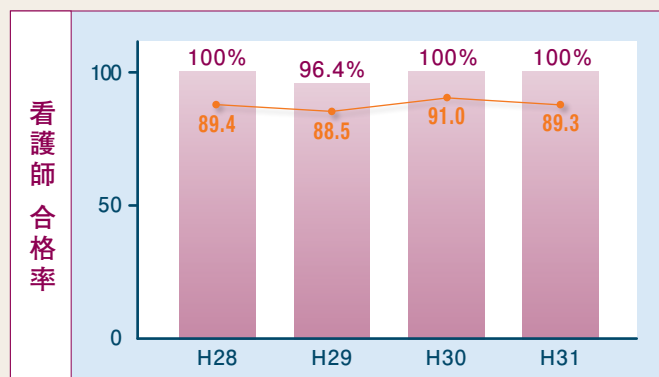
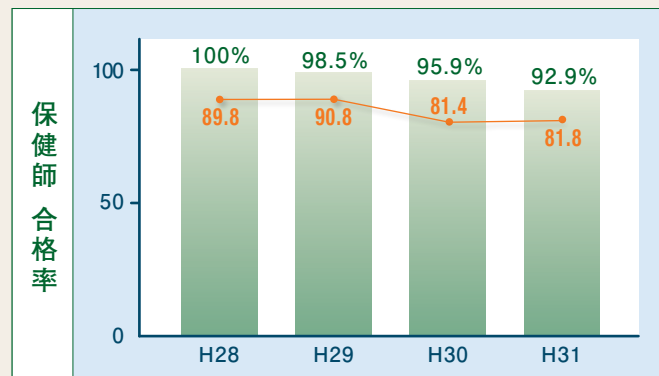
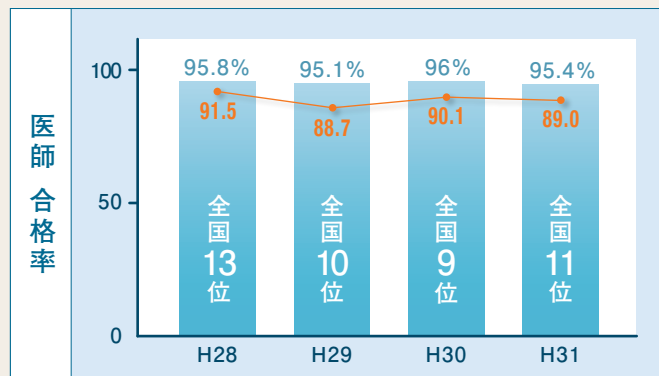
マジックショーは6～7月の院内マジックショーや、医大祭のマジックショーの他に、介護・養育施設、小学校や科学館などから依頼を受けて、年に合計5～6回ほどマジックショーを行います。

マジックショーの前には何日間か、部員で予定が合う日に集まって部室で練習とアドバイスをしあうので、本番も安心です。家具なども



あり快適な空間なので、テスト勉強など、マジック以外でも部室は部員の憩いの場になっており、楽しく活動しています。

こういった活動ができるのは、協力してくださる地域の方々、施設、学校関係者の皆様のおかげであります。このことに感謝しながら、マジックを通して地域の皆さんや患者さんとふれあったり、またそのきっかけになれるように、これからも部員一同部活動に励んでいます。



合格率(既卒を含む)

全国平均合格率(既卒を含む)

第113回医師国家試験大学別合格状況

順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
1	自治医科大学	125	124	99.2%
2	順天堂大学医学部	124	122	98.4%
3	横浜市立大学医学部	86	84	97.7%
4	東京慈恵会医科大学	117	114	97.4%
5	筑波大学医学専門学群	121	117	96.7%
6	東京医科歯科大学医学部	113	109	96.5%
7	聖マリアンナ医科大学	124	119	96.0%
8	杏林大学医学部	116	111	95.7%
9	金沢大学医学部	112	107	95.5%
9	愛媛大学医学部	112	107	95.5%
11	浜松医科大学	131	125	95.4%
11	札幌医科大学	109	104	95.4%
13	慶應義塾大学医学部	115	109	94.8%
14	滋賀医科大学	126	119	94.4%
15	東北大学医学部	150	141	94.0%

(既卒を含む)

順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
15	兵庫医科大学	117	110	94.0%
17	藤田医科大学医学部	129	121	93.8%
18	大阪市立大学医学部	95	89	93.7%
19	信州大学医学部	122	114	93.4%
20	和歌山県立医科大学	104	97	93.3%
21	琉球大学医学部	129	120	93.0%
21	日本医科大学	115	107	93.0%
21	北里大学医学部	128	119	93.0%
24	千葉大学医学部	138	128	92.8%
25	岐阜大学医学部	106	98	92.5%
26	東京医科大学	127	117	92.1%
26	近畿大学医学部	114	105	92.1%
28	秋田大学医学部	135	124	91.9%
28	山梨大学医学部	149	137	91.9%
30	名古屋大学医学部	121	111	91.7%
30	徳島大学医学部	133	122	91.7%

(既卒を含む)

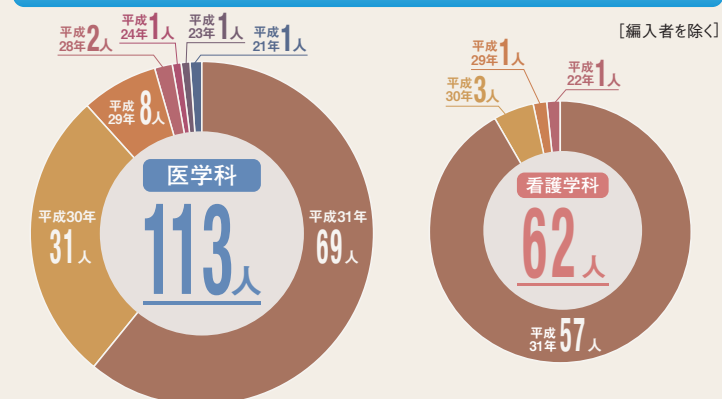
平成31(令和元)年度 入学者選抜試験実施状況

入学者選抜試験実施状況

学科名	区分〔募集人員〕	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
医学科	前期日程 〔75〕	362 (118)	300 (100)	263 (86)	75 (20)	3 (0)	0 (0)	72 (20)
	後期日程 〔15〕	128 (45)		43 (16)	17 (10)	2 (2)	1 (0)	16 (8)
	推薦入試 〔25〕	79 (40)		75 (37)	25 (9)	0 (0)	0 (0)	25 (9)
	帰国子女 〔若干名〕	6 (4)		3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	私費外国人 〔若干名〕	1 (1)		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合 計 〔115〕	576 (208)		385 (143)	117 (39)	5 (2)	1 (0)	113 (37)
	2年次編入学 〔5〕	137 (46)	40 (8)	32 (7)	5 (0)	1 (0)	1 (0)	5 (0)
看護学科	前期日程 〔40〕	71 (66)		55 (52)	40 (37)	0 (0)	0 (0)	40 (37)
	推薦入試 〔20〕	51 (48)		50 (47)	20 (19)	0 (0)	0 (0)	20 (19)
	帰国子女 〔若干名〕	2 (2)		2 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	社会人 〔若干名〕	4 (4)		3 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	合 計 〔60〕	128 (120)		110 (104)	63 (59)	1 (1)	0 (0)	62 (58)
	3年次編入学 〔10〕	26 (24)		25 (23)	8 (7)	1 (1)	0 (0)	7 (6)

()内数字は、内数で女子を示す。

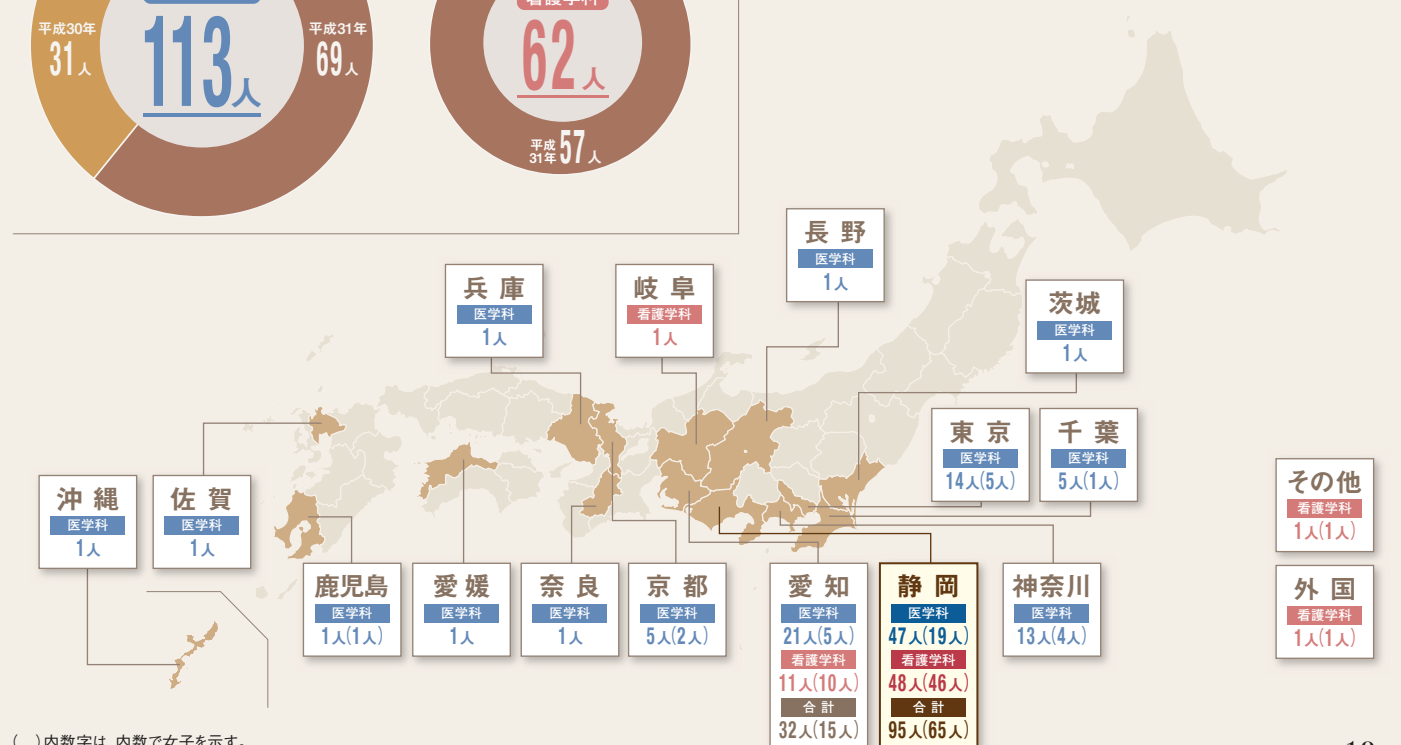
高等学校等卒業年別入学者状況



出身高等学校等所在都道府県別入学者状況

医学科 113人(37人) 看護学科 62人(58人)

総計 175人(95人) [編入者を除く]



()内数字は、内数で女子を示す。

平成30年度 卒業生・修了生の進路状況

医学科		卒業生 126人	
就職先等	内 訳	人数	(人)
本 学	浜松医科大学医学部附属病院	27	27
国立大学病院	東京大学医学部附属病院	4	7
	東京医科歯科大学医学部附属病院	2	
	筑波大学附属病院	1	
公立大学病院	横浜市立大学附属病院	1	3
	横浜市立大学附属市民総合医療センター	1	
	名古屋市立大学病院	1	
私立大学病院	昭和大学江東豊洲病院	1	3
	自治医科大学附属病院	1	
	杏林大学医学部付属病院	1	
国立病院	独立行政法人 労働者健康安全機構 浜松労災病院	2	7
	国立病院機構 埼玉病院	2	
	独立行政法人 労働者健康安全機構 中部ろうさい病院	1	
	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	1	
	国際医療研究センター国府台病院	1	
公立病院	磐田市立総合病院	9	47
	浜松医療センター	3	
	静岡県立総合病院	4	
	静岡市立静岡病院	4	
	中東遠総合医療センター	6	
	藤枝市立総合病院	3	
	富士宮市立病院	3	
	東京都立大塚病院	1	
	豊橋市民病院	3	
	焼津市立総合病院	1	
	藤沢市民病院	1	
	岡崎市民病院	1	
	公立西知多総合病院	1	
	小牧市民病院	1	
	横須賀市立うわまち病院	1	
	名古屋市立東部医療センター	1	
	公立福生病院	1	
	市立甲府病院	1	
	東京都保健医療公社東部地域病院	1	
	富山市立富山市民病院	1	
その他病院	JA静岡厚生連 遠州病院	1	25
	聖隷三方原病院	5	
	聖隷浜松病院	3	
	静岡済生会総合病院	3	
	静岡赤十字病院	3	
	NTT東日本関東病院	1	
	刈谷豊田総合病院	1	
	江東病院	1	
	熊谷総合病院	1	
	河北総合病院	1	
	湘南東部総合病院	1	
	仙台厚生病院	1	
	千葉県済生会習志野病院	1	
	洛和会丸太町病院	1	
	名古屋掖済会病院	1	
国家試験不合格		5	5
未定		1	1
不明		1	1
合計 126			

看護学科		卒業生 70人	
就職先等	内 訳	人数	(人)
本 学	浜松医科大学医学部附属病院	29	29
国立大学病院	名古屋大学医学部附属病院	1	3
	防衛医科大学校病院	1	
	岐阜大学医学部附属病院	1	
私立大学病院	昭和大学横浜市北部病院	1	3
	関西医科大学附属病院	1	
	藤田医科大学病院	1	
国立病院	国立病院機構天竜病院	1	5
	関東労災病院	2	
	浜松労災病院	2	
公立病院	大垣市民病院	1	10
	静岡県立静岡がんセンター	1	
	静岡県立こども病院	1	
	市立島田市民病院	1	
	静岡県立総合病院	4	
	浜松医療センター	1	
その他病院	静岡県立静岡病院	1	5
	JA静岡厚生連 遠州病院	1	
	静岡赤十字病院	1	
	聖隷浜松病院	1	
	聖路加国際病院	1	
県・市役所・健診センター等	成田記念病院	1	7
	湖西市役所	1	
	静岡県庁	1	
	静岡市役所	2	
企業	浜松市役所	3	2
	トヨタ自動車株式会社	1	
進学	プライムアースEVエナジー株式会社	1	5
	浜松医科大学大学院助産師養成コース	3	
	静岡市立清水看護専門学校助産師養成課程	1	
不明	山形大学地域教育文化学部看護教諭特別別科	1	1
		1	
合計 70			

大学院修士課程助産師養成コース		修了者 5人	
就職先等	内 訳	人数	(人)
本 学	浜松医科大学医学部附属病院	1	1
公立病院	東京都立墨東病院	1	1
その他病院	静岡済生会総合病院	1	3
	安城更生病院	1	
	聖隷沼津病院	1	
合計 5			



What did you study before coming Japan?
I completed my medical graduation from Chittagong Medical College in Bangladesh in 2004. I did Master of Health Economics (MHE) from University of Dhaka during 2008 - 2009. Then I did post-graduation in Ophthalmology (e.g. DO & MCPS) during 2010-2011 in Dhaka, Bangladesh. After that I completed Pediatric Ophthalmology Fellowship training in the L V Prasad Eye Institute in Hyderabad, India during 2012 -2014.

What made you to be in HUSM? How about your research?
I came in Kyoto, Japan to attend AAPOS-JAPO-JASA joint meeting and 12th Meeting of the International Strabismological Association (ISA) in 2014. After the conferences I visited the Ophthalmology Dept. of HUSM for five days under the supervision of Prof. Yoshihiro Hotta and Associate Prof. Miho Sato. Later on, I became interested in PhD, which is closely related

**日本に来る前は
どこでどんな勉強をしていましたか？**
2014年にバングラデシュのチッタゴン医科大学で医学士を取得後、ダッカ大学にて医療経済学修士課程を修了(2008～2009年)しました。その後、大学院で眼科学を専攻し、学位(DO及びMCPS)を取得(2010～2011年)しました。そして、インドのハイデラバードのL.V.プラサード研究所にて小児眼科フェローシップトレーニング(2012～2014年)を修了しました。

**浜松医科大学での研究を選んだきっかけは？
研究テーマ、研究成果はどうですか？**
2014年、京都で開催された「日本弱視斜視学会・日本小児眼科学会総会・アメリカ小児眼科斜視学会合同学会(AAPOS-JAPO-JASA joint meeting)」及び「第12回国際斜視学会(ISA)」に出席するため来日しました。学会の後、浜松医科大学の眼科学講座を訪ね、5日間にわたり堀田喜裕教授と佐藤美保准教授にご指導いただきました。これをきっかけに、「博士課程で眼の遺伝学を深く学びたい」と思うようになり、浜松医科大学へ進学しました。現在は、葺島伸生教授のご指導の下、光ゲノム医学研究室で研究を行っています。

研究プロジェクトのうち「錐体杆体ジストロフィの日本人1家系の変異解析」については既に研究を終えており、完成した論文は日本人類遺伝

留学生の紹介

「眼の遺伝学を深く学びたい」と思い、
浜松医科大学へ

International Student Introduction

大学院医学系研究科(博士課程)3年
光先端医学教育研究センター
フォトニクス医学研究部 光ゲノム医学研究室

Muhammad Nazmul Haque

(ムハンマド ナズムール ハック)

出身国

バングラデシュ



to ocular genetics, and got enrolled in the Department of Photomedical Genomics under supervision of Prof. Shinsei Minoshima.

Among my research projects, “Study of one Japanese family of cone-rod dystrophy” has already been finished and published in Human Genome Variation (Haque et al. Human Genome Variation (2019)6:18).

My other projects include “Incontinentia pigmenti (IP) patients’ analysis for the mutation of the causative IKBKG/NEMO gene” and “EYS (Eyes Shut Homolog (Drosophila)) gene new exon discovery” project. All my research projects are being performed as a collaboration between the Photomedical Genomics Department and the Department of Ophthalmology of our university.

How is your life in Hamamatsu?

My family is with me in Hamamatsu. My son is in grade-1 in Aritama Shougakko. My wife is an

English teacher in OP-NET English Institute in Aritama. Our life in Hamamatsu is quite busy but quiet and comfortable. Most often we roam around to enjoy the nature, mountains, volcanos and the seashores in other cities of Japan. We often enjoy Japanese cuisine and fruits. Only difficulty in Japan is language. My son and wife are good in speaking Japanese but it's difficult for me.

What is your plan after graduation?

After graduation in HUSM, I would like to join in a postdoctoral research for 1～2 years, preferably in US or Europe. Then I will return to my home country and initiate some collaborative research work.



▲光ゲノム医学研究室のメンバーと。
中央が葺島教授と筆者。

▼2019年6月浜松で開催されたJASA-JAPO合同学会(筆者は前列左から2番目)。



▲ベンガル歴1425年正月。本留学学生と(後列右から2番目が筆者)。

将来の目標を教えてください

博士課程修了後は、できればアメリカかヨーロッパでポストドクとして1～2年研究をしたいと思っています。その後は母国へ戻り、共同研究をはじめたいと思います。



▲2018年ラマダン明けの祭り(イード)を妻と息子と。

浜松での生活はどうですか？ 大変なことは？

家族と一緒に浜松で暮らしています。息子は有玉小学校の1年生です。妻はオプネット英語学院有玉校で英語教師をしています。毎日やるのがたくさんありますが、浜松の生活は穏やかで快適です。たびたび山や海岸

など日本の色々なところへ散策に出かけ、自然を満喫しています。日本食や日本の果物を味わうのも楽しみのひとつです。唯一大変なことは、言葉です。息子と妻は日本語が話せますが、私には難しいです。



◀ ハートチーム
サンデー毎日にも掲載されたハートチームのメンバー
(前列一番右が筆者)

▼ 手術風景: 左が筆者



手術に向き合う日々

2002年に入学したいわゆる「02学年」です。大学時代は空手道部に所属し、西医体や東国体の団体戦で優勝するなどとても思い出深い6年間は浜松で過ごしました。はじめて外科医志望で医学部に入学しましたが、ポリクリで実際の手術を見ると、心臓血管外科、特に大動脈手術に魅力を感じるようになりました。大動脈手術で有名な病院をリサーチすると、私の地元の埼玉にある自治医科大学附属さいたま医療センターが、実は日本有数の手術実績のある病院ということを知りました。当時の教授であった安達秀雄先生は大動脈手術でご高名な先生で、しかも母校の県立浦和高校の先輩でもあったため、非常に歓迎していただき、初期研修からお世話になることにしました。心臓外科は厳しい世界ですので、いつまで続けられるのか不安はありましたが(そして今でもそれは同じですが)、初期研修医で入職して3年目で入局し、関連病院を転々としながら修練を重ね、早12年目になりました。

手術は低侵襲の時代に突入しており、一般消化器外科領域では学生時代からすでに腹腔鏡手術が台頭し始めていましたが、現在は泌尿器科・産婦人科領域でDa Vinciを用いた手術が普及しています。その流れは心臓血管外科領域でも同様であり、冠動脈手術では人工心臓を使用しないOPCAB、大動脈手術では胸部/腹部ステントグラフト手術があげられ、弁膜症手術でもMICS、そしてついには経カテーテル的に弁膜症治療を行うTAVI、MitraClipなどが登場し、いわゆる外科的治療を凌駕する勢いで件数が増加しています。

入職した年は、胸部ステントグラフト手術が国内で導入された年です。当医局では若手外

科医が指導医の下、早い段階で手術を担当する伝統があり、これまでに非常に多く経験を積ませていただきました。もとはいわゆる「切った」「縫った」の大動脈手術を極めたかったわけですが、入局当初よりカテーテルやワイヤーを用いた血管内治療に関わる機会は自然と多く、現在は外科手術と血管内治療の二刀流で日々の手術にあたっています。

この一年は血管内治療の延長からTAVIチームに所属し、循環器内科の先生方とともに大動脈弁狭窄症に対するTAVIを中心となって担当しております。当センターには浜松医科大学の卒業生が多く在籍しており、特にTAVIには03学年の津久井先生や06学年の玉那覇先生も携わっており、一緒に仕事をさせてもらっています。

また留学に行く機会にも恵まれ、2015～2017



▲ 留学: 留学中の研究室の仲間と前任の先生(後列一番右が筆者)

年に米国メリーランド州のボルチモアにあるThe Johns Hopkins大学に研究留学しておりました。苦労ばかりの2年間で、研究業績も残せずじまいで帰国となりましたが、友人には恵まれ、人生にとって有意義な時間でした。

心臓血管外科の手術は、手術の善し悪しで患者予後を大きく規定し、厳しい世界であると肌身で感じる毎日です。高齢化社会が進む中で、治療対象患者年齢も当然高齢化するとともにfrailtyも上がっています。そのような条件の中で患者さんを術後元気に退院させるためには、まずまずの技術力あるいは治療戦略が問われています。この道10年でようやく心臓血管外科専門医資格を取得したとはいえ、それはいわばやっと黒帯を取った初段みたいなものです。ここからが自立した一人前の心臓外科医への道のりであり、研鑽の日々を送っていきたいと思います。



卒業生

は

今

医学科29期生
(平成20年3月卒業)
野村 陽平

今年度の看護部主催のレクリエーション大会の
3階東病棟の集合写真
(筆者が一番左上) ▶

▼ アメリカのグランドキャニオン



WLBを大切にして仕事もプライベートも 楽しくが私のモットーです

看護学科8期生
(平成18年3月卒業)
三宅 沙弥

皆様、こんにちは。私は浜松医科大学を卒業後、そのまま浜松医科大学附属病院に就職して14年目になりました。現在は3階東病棟(脳神経外科・眼科)で副看護師長として働いています。

私は、「実習が楽しかったから」という理由で当院への就職を決め、7階東病棟(整形外科・眼科)に新人として配属されました。初めの頃は今では考えられないような失敗をたくさんしましたが、先輩方に厳しくも愛のこもった指導をしていただき、のびのびと育ったと思います。つらいこともありましたが、看護が楽しいと感じていて、辞めたいと思うことはありませんでした。そこで4年半働いた後、7階西病棟(呼吸器内科・肝臓内科・内分泌内科)に異動になりました。

内科病棟では7年間勤務し、様々な疾患と共に生きる方々と出会いました。疾患の診断を受け、治療をしながら生活し、終末期を迎える方もいらっしゃいました。患者さんだけでなく、家族の方と関わる機会も多く、患者さんや家族の希望に寄り添える看護師でありたいと思うようになりました。内科病棟での経験は私の看護観に大きな影響があったと感じています。

そして、現在の3階東病棟に異動して、もうすぐ2年になります。初めてのことやわからないことだらけで、意識障害で入院された方が話せるようになったり、麻痺があった方が杖を使って歩けるようになったり、内科との違いに戸惑うこともありましたが、少しずつ脳神経外科の疾患や経過が

分かるようになってきましたが、やはり内科と外科では業務の流れも異なり、看護師としてなができるのか、患者さんや家族とどう関わっていこうかと考える日々が続いています。そのため、今も新しいことを勉強しながら働いているところです。しかし、なんだかんだ言っても疾患は違えど看護の本質は変わらないので、新しい気づきがある度に、やっぱり看護は楽しいと感じます。そして、様々な病棟を経験していくうちに、看護師としてジェネラリストを目指していくこともいいかなと思うようになりました。私は、仕事の中にも楽しさを見つけ、今後も自分の看護観や看護の楽しさを伝えられるような存在になりたいと思っています。

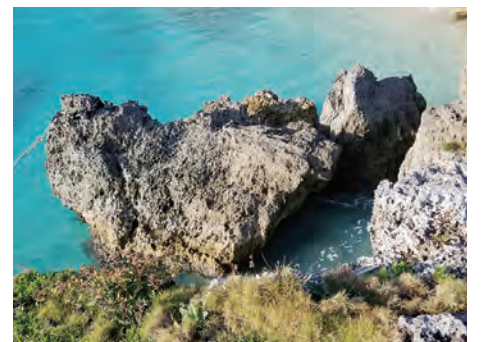
一方で、私は休日の過ごし方も大事にしています。とにかくお出かけが大好きで、国内外問わず、休みの日はどこかへ出かけています。きれいな景色や美味しい食べ物とお酒を目当てに出かけ、リフレッシュしています。



▲ 沖縄に行ったときの首里城

一番印象に残っている旅先は、アメリカのグランドキャニオンです。夜の星空がとてもきれいで、手を伸ばしたら届きそうなくらい空が近く感じました。壮大な自然の中でサンセットやサンライズを見たときは感動して涙が出ました。初めてミルキーウェイや流れ星もたくさん見ることができて、素敵な経験ができました。また、最近では冬の沖縄に行きました。冬なのに日中は25℃と暖かく、雲一つない晴れた空だったので、本当に冬かな?となりましたが、海が青くて広くて、心がとても穏やかになりました。沖縄は食べ物お酒も美味しくて、心も体もリフレッシュできました。

こんな風にして、仕事もプライベートも楽しく、自分で言うのもなんですが、充実した日々を過ごしています。これからも、WLB(ワーク・ライフ・バランス)を大切にして、プライベートでは日々笑って過ごせるように、そして、仕事ではジェネラリストを目標に、患者さんや家族の希望に寄り添える看護師でありたいと思います。



▲ 沖縄の古宇利島の海

浜松医科大学基金へご協力いただき、 心よりお礼申し上げます。

浜松医科大学基金の目的

平成28年7月に、教育・研究・診療及び社会貢献活動を推進していくために募金活動を行うこととし、「浜松医科大学基金」を設立しました。
「浜松医科大学基金」を通じて、安心して医学・看護学の教育・研究に打ち込める環境や様々な交流を行う機会を安定的に提供することにより、将来性豊かな多くの若者を優れた医療人や研究者に育てていきたいと思ひます。
浜松医科大学はこれからも地域社会に貢献しつつ、本学の特色を世界に発信していきます。

寄附者ご芳名

平成31年2月から令和元年8月までにご寄附いただいた方で、お名前の公表をご了承いただいた方を五十音順にご紹介させていただきます。
なお、本学職員につきましては割愛させていただきました。

個人

青島 重幸 様 大西 一功 様 河崎 孝弘 様 高田 佳世子 様 野村 和広 様 村山 恵子 様
浅井 明子 様 大橋 弘幸 様 川出 芳彦 様 高橋 清夫 様 野村 基子 様 谷島 康司 様
天野 元明 様 大橋 幸由 様 神林 知幸 様 武井 陽一 様 野村 陽平 様 山下 富雄 様
新井 富生 様 大村 久美子 様 黒田 淳 様 竹内 敏行 様 坂東 誠一 様 山中 和之 様
栗田 成毅 様 岡田 満夫 様 小出 茂樹 様 竹内 宏一 様 菱田 明 様 山中 克二 様
伊藤 すみえ 様 岡野 昌彦 様 肥沼 幸 様 田島 良雄 様 菱田 洋志 様 山中 寿夫 様
岩瀬 信二 様 小川 浩 様 小島 由光 様 田中 雄二 様 本郷 輝明 様 吉田 孝人 様
上野 剛志 様 金子 寛 様 小西 高志 様 津幡 佳伸 様 牧野 達郎 様 米山 雅彦 様
海野 直樹 様 鎌田 皇 様 小林 亮 様 戸田 準一 様 松井 宏文 様
江田 晴夫 様 加茂 雄樹 様 小松 明 様 仲地 聡 様 松浦 脩博 様
遠藤 真琴 様 加陽 直実 様 鈴木 幸子 様 中山 莊太郎 様 松下 博文 様
大石 晴之 様 川北 かおり 様 鈴木 律夫 様 名倉 康雄 様 松本 かおり 様
(本学職員 37名)

法人・団体等

一般社団法人 静岡市静岡医師会 様
医療法人社団新風会 丸山病院 様
医療法人社団泰誠会 大脇産婦人科医院 様
医療法人社団まなも 様
医療法人社団竜洋おおつ内科小児科 様
遠州信用金庫 様
奥山診療所 様
OHARAMAKOTO消化器・肛門外科クリニック 様
桜町クリニック 様
セキスイハイム東海株式会社
浜北日中友好協会 様

ご寄附のお申し込みについて

電話、FAX、またはメール等でお名前とご住所をお知らせください。ご寄附に必要な書類をお送りいたします。浜松医科大学基金ホームページより、クレジットカードでのご寄附も受け付けております。

浜松医科大学基金ホームページ
<https://www.hama-med.ac.jp/kikin/index.html>

お問い合わせ先

浜松医科大学基金事務局 総務課広報室 広報・基金係
〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1
E-mail kikin@hama-med.ac.jp

TEL 053-435-2107 FAX 053-435-2112

浜松医科大学建学の理念

第1に優れた臨床医と独創性に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

浜松医科大学の目的及び使命

浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。

編集後記

元号も令和となり、新時代の幕開けとともに進化し続ける本学の姿をお届けいたします。トピックスとして、浜松の地域特性を生かした医工連携拠点棟 (iMec棟) がオープンしました。ここから魅力あふれるプロジェクトが発信されることが大いに期待されます。2年前に着工した基礎臨床研究棟の改修もいよいよ大詰めを迎え、また図書館・福利施設棟も新しいニーズに応えるべく改修に入っております。工期中につき引き続き近隣の皆様、ご来学の方々にはご迷惑をおかけしますが、工期完了までいましばらくお待ち下さい。順次、新たな装いをご紹介できることと思ひます。

ニュースレター編集委員 Y.S.



浜松医科大学マスコットキャラクター
はんだやまっぴー

原稿募集

小誌をご覧になられた感想はいかがでしたでしょうか。
読後のご感想やご意見をお寄せください。また、各欄(「研究最前線」「海のおこう」「大学ニュース」「寄稿」「卒業生は今」など)への投稿や本学に関連する写真を、随時、募集しています。
職員や学生だけでなく、広く関係者の方々からのご提案をお待ちしております。
読面づくりに、ぜひご参加ください。

広報室 koho@hama-med.ac.jp

編集・発行

浜松医科大学ニュースレター編集部会

発行日

令和元年10月1日

お問い合わせ

国立大学法人浜松医科大学 総務課 広報室
〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号
TEL.053-435-2111(代表)



浜松医科大学オンデマンド

<http://od.hama-med.ac.jp>

f 浜松医科大学

<https://facebook.com/HamamatsuUniversitySchoolofMedicine>



f 浜松医科大学医学部附属病院

<https://facebook.com/HamamatsuUniversityHospital>

